

テーマ：2014年1-3月期GDP（2次速報値）の予測
～ 1次速報からほぼ変わらずと予想 ～

発表日：2014年6月2日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 新家 義貴
[TEL:03-5221-4528](tel:03-5221-4528)

6月9日に内閣府から公表される2014年1-3月期実質GDP（2次速報）を前期比年率+5.7%（前期比+1.4%）と、1次速報段階の前期比年率+5.9%（前期比+1.5%）からほぼ変わらずと予想する。

本日公表された法人企業統計の結果が反映されることで、設備投資が上方修正、在庫投資が下方修正されるとみられるが、いずれも修正は小幅で、GDP成長率も1次速報からほとんど変化なしと予想する。景気認識に変更をもたらすものにはならないだろう。「外需が足を引っ張る一方、駆け込み需要による個人消費の急増と、設備投資の伸び拡大が押し上げ要因になり、極めて高い成長が実現」という構図も1次速報から変わらない。

2014年1-3月期GDP2次速報予測

1次速報実績

	(%)		(%)
実質GDP	1.4		1.5
(前期比年率)	5.7		5.9
民間最終消費支出	2.1		2.1
民間住宅	3.1		3.1
民間企業設備	5.1		4.9
民間在庫品増加(寄与度)	▲ 0.3		▲ 0.2
政府最終消費支出	0.1		0.1
公的固定資本形成	▲ 2.6		▲ 2.4
財貨・サービスの輸出	6.0		6.0
財貨・サービスの輸入	6.3		6.3
名目GDP	1.2		1.2
(前期比年率)	4.9		5.1

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

設備投資は僅かに上方修正されると予想する。本日公表された法人企業統計では、名目設備投資が季節調整済み前期比+3.1%となった。これに、QE推計において実施されている法季のサンプル要因を除去するための断層調整、GDP 1次速報段階で反映されていなかった3月分の供給側統計の反映などを考慮すると、GDP 2次速報の実質設備投資は前期比+5.1%になると予想される。1次速報の前期比+4.9%からはやや上方修正になるだろう。筆者は法季公表前に、GDP 1次速報の設備投資が非常に高い伸びだったため、2次速報では比較的大きな下方修正になるのではと考えていたが、法季の結果は筆者の予想よりも強く、どうやら明確な下方修正は避けられそうな情勢だ。2次速報においても設備投資が非常に高い伸びになることで、設備投資の回復基調が明確化していることが改めて示されるだろう。企業収益の大幅増加や企業マインドの改善、設備過剰感の解消などを背景に、企業の投資意欲が持ち直していることが背景にあるとみられる。

在庫投資は前期比寄与度▲0.3%Ptと、1次速報(▲0.2%Pt)から下方修正されると予想する。法人企業統計の結果を反映し、原材料在庫と仕掛品在庫がやや下方修正されるほか、流通在庫も下方修正が見込まれ

る。

そのほか、1次速報段階で未公表だった3月分の建設総合統計の結果が反映されることで、公共投資は前期比▲2.6%と、1次速報段階の前期比▲2.4%からやや下方修正されると予想する。